



奈良県立医科大学医学部医学科 卒業時アウトカム



I 倫理観とプロフェッショナリズム

患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム（態度、考え方、倫理観など）を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの必要性和方法を理解している。

1. 人間の尊厳を尊重し、患者に対して利他的、共感的、誠実に対応し、患者中心の立場に立つことができる。
2. 医療倫理・研究倫理を理解し、倫理的原則に基づいて行動することができる。
3. 医療者としての法的責任・規範を理解し、遵守することができる。
4. 医学、医療の発展に貢献する使命感と責任感を持つことができる。
5. 自己の目標を設定し、生涯にわたり向上を図るために学習し研鑽することができる。

診療の場で修得した知識・技能・態度を実践できる	診療の場で修得した知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
-------------------------	-----------------------	-------------------	----------------	----------

II 医学とそれに関連する領域の知識

基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、自然科学、社会科学など関連領域の知識と原理を理解し、説明できる。

6. 自然科学と医学の関わりについて説明できる。
7. 個体の構造と機能を説明できる。
8. 発生・発達・成長・加齢・死について説明できる。
9. 病因・病態生理を理解し、診断・治療の原理について説明できる
10. 社会と医学・医療との関係、死と法について説明できる。
11. 人の行動・心理について説明できる。
12. 医療安全の重要性、医療事故の予防と対処について説明できる。

診療の場で修得した知識を問題解決に活用できる	診療の場で修得した知識を活用して議論し発表できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
------------------------	--------------------------	-------------------	----------------	----------

III 医療の実践

患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い疾患の診断と治療を計画できる。

13. 患者の主要な病歴を正確に聴取できる。
14. 身体診察と基本的臨床手技を適切に実施することができる。
15. 臨床推論により必要な検査を選択し、診断結果から適切な治療計画を立てることができる。
16. 診療録を適切に作成できる。
17. EBMを活用し、患者の安全性を確保した医療を実践できる。

診療の場で実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
------------	------------	-------------------	----------------	----------

IV チームマネジメントとコミュニケーション技能

お互いの立場を理解、尊重した人間関係を構築し、思いやりがある効果的なコミュニケーションができる。医学・医療における文書を適切に作成し、取り扱うことができる。責任ある情報交換と記録を行うことができる。

18. 患者、患者家族、医療チームのメンバーと、個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを取ることができる。
19. 患者、患者家族、医療チームのメンバーとの信頼関係を築き、情報交換、説明と同意、教育など医療の基本を実践できる。
20. 各種医療専門職について理解し、チームリーダー及びメンバーとして役割を果たすことができる。
21. レポートや診療情報などの文書を規定に従って適切に作成し、プレゼンテーションができる。

診療の場で修得した知識・技能・態度を実践できる	診療の場で修得した知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
-------------------------	-----------------------	-------------------	----------------	----------

V 医学、医療、保健、社会への貢献

医療機関、行政等の規則等に基づいた保健活動と医療の実践、研究、開発を通して社会に貢献できることを理解できている。

22. 保健・医療・福祉・介護に関連する法規・制度等を理解したうえで活用することができる。
23. 健康・福祉に関する問題を評価し、地域や国際社会の疾病予防や健康増進の活動に参加できる。
24. 医師として地域医療に関わることの必要性を理解し、医療現場でプライマリ・ケアを含む診療を実践できる。
25. 医学・医療の研究と開発が社会に貢献することを理解できる。

診療の場で修得した知識を問題解決に活用できる	診療の場で修得した知識を活用して議論し発表できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
------------------------	--------------------------	-------------------	----------------	----------

VI 国際的視野と科学的探究

国際的視野をもって、基礎、臨床、社会医学の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考に基づき計画の立案ができる。

26. 国際的視野で医療と医学研究を考えることができる。
27. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解し、説明できる。
28. 科学的研究で明らかになった新しい知見を明確に理解し、説明できる。

立案した計画を実施・発表できる	課題を認識し、計画立案できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
-----------------	----------------	-------------------	----------------	----------